

Stage8

The Snow Den

雪の隠れ家

作・シュー・レイナー

絵・ジョン・スチュアート

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話しましょう。

- ・表紙と裏表紙を見ましょう。この本にどんなことが書かれているかヒントがみつかります。
- ・冬の季節と雪について話しましょう。雪の中でどのような遊びができるか話してもらってください。
- ・氷の上や水の近くで遊ぶことの危険について話しましょう。
- ・このお話しの中で、どんなことが起こると思うか、お子さんに話してもらってください。

<読んでいるときに>

自分のスピードで読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

<ひっかかることば>

ここにあげるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

dangerous 危険な

jabbed 突いた

plough すき(鋤)

igloo イグルー(イヌイットの作る氷の家)

curve 曲面

dome ドーム

dragged 引きずる

window 窓

[p. 1]

砂の城

雪の隠れ家

作・シュー・レイナー

絵・ジョン・スチュアート

[p. 2]

マックスが大声で手をふって言いました「タイガー、止まれ！」

タイガーは氷のはった池のふちに立っていました。左足が空中で止まって動かなくなりました。タイガーは池に踏みだそうとしているところでした。

[p. 3]

マックスがタイガーをつかみました。マックスは池のふちからタイガーを引きはなしました。

「氷の上ですべるんだ」タイガーが言いました。

「だめだよ！」マックスが言いました。「危険だ」

[p. 4]

アントが棒きれで氷を突きました。氷はかんたんに割れました。

「落ちるところだったよ」アントは言いました。
「ぼくは泳ぎの名人だぞ！」タイガーは自慢しました。

[p. 5]

「バカ言わないでよ、タイガー」キャットが言いました。「氷の下からでられなくなったかもしれないわ」
タイガーは割れた氷をひろいあげました。
「ガラスみたいだ」タイガーは言いました。

[p. 6]

キャットが身ぶるいしました。「ブルルル！ ここ、ここえそうだわ。マイクロサイズの隠れ家に入りましょうよ」
友だち 4 人は、深い雪のなかをよろめきながら進みました。

[p. 7]

4 人がマイクロサイズの隠れ家近くまでやってきたとき…… シュー！
除雪車が通り過ぎました。除雪車は木の切り株一面に雪をふきかけました。
「うわ、まずい！ ぼくたちの隠れ家が雪にうまっちゃった！」タイガーが嘆くように言いました。「もうなかに入れないや」

[p. 8]

キャットの歯はカタカタなっていました。
「いい考えがある」アントが言いました。「雪の隠れ家をつくろう、イヌイットが住んでるイグルーみたいなやつ！ イグルーは、なかが本当にあったかいんだ」

[p. 9]

「そんなものすごく時間がかかるわ」キャットが不平を言いました。
「マイクロ・イグルーだったら時間はかからないよ」アントが言いました。
4 人の友だちは、雪を積みかさねはじめました。イグルーのまわりをつくるのはかんたんでした。屋根を丸くして、ドーム型にするのはたいへんでした。

[p. 10]

まもなく 4 人は、小さいながらも完ぺきなイグルーをつくりました。
「なかに入りましょう」キャットが言いました。
4 人は腕時計のダイヤルをまわして……

[p. 11]

[p. 12]

小さくなったマイクロ・フレンズの 4 人は、じぶんたちの雪の隠れ家のなかに入りました。
「暗いわ」キャットが言いました。
「いくつか窓が必要だな」マックスが言いました。
「ぼくが池からさっきとった氷を使おう」タイガーが言いました。

[p. 13]

マックスとタイガーは氷をとりに行きました。キャットとアントは、イグルーの横に穴をあけました。「なぜイグルーはくずれないの」キャットがたずねました。「ドーム型はとても頑丈なんだよ、たとえ横に穴があいていてもね」アントが説明しました。

[p. 14]

マックスとタイガーは割れた氷を見つけました。ふたりは破片をイグルーまで引きずっていきました。

[p. 15]

マックスが氷をもちあげました。キャットとアントがそれを穴にはめこみました。完ぺきな窓ができました。

[p. 16]

外で、タイガーが雪を押しかためて玉にしました。タイガーはマックスにねらいをつけると……
<くられ！>
バシン！ 雪玉がマックスの首にあたりました。こおるように冷たい雪が背中にしたたり落ちてきました。

[p. 17]

マックスはすばやくじぶんの雪玉をつくりました。それをタイガーに投げました。すぐにふたりはたがいな雪玉を投げ合いながら、わめいたり、さけんだりしはじめました。アントが入り口から顔をだしたちょうどそのとき、大きな雪玉がヒューとかすめていきました。
<おい！>

[p. 18]

「入ってなかを見てごらんよ」アントが声をかけました。
みんなはイグルーのなかに入りました。
「うわあ、すごく明るいや」タイガーが息をのみました。
「すごくカッコイイ」マックスが言いました。
「カッコイイけど」キャットが不平をいいました。「でもまだ、さ、さ、寒いわ！」
「あたたかくなる方法、知ってるよ」タイガーが言いました。「ついておいで！」

[p. 19]

地面に氷がひとかけらのこっていました。
「さあ、おいで！」タイガーがさけびました。タイガーは氷の上をすべりました。「ぼくたち小さくなっているから、氷もがんじょうですべれるよ」
<わーいっ>

[p. 20]

すぐに全員が、そこらじゅうをすべったり、転んだりしました。タイガーのスケートリンクは、ほんとうにたのしいものでした。キャットのほほが赤くなってきました。
「もう寒くない！」キャットがタイガーにさけびました。キャットは片足でタイガーをスピードをあげてさっとぬいていきました。

[p. 21]

翌日、太陽がでました。雪はしずくとなって木からしたり落ちました。イグルーの屋根は落ち、窓はとけてしまいました。タイガーのスケートリンクは消えてなくなりました。「行こう」マックスが言いました。「もうマイクロサイズの隠れ家に入れるぞ。整とんしなくちゃ」「えーっ、すばらしいね」タイガーがうめくような声で言いました。「整とんなんて……、ぼく、大好き！」

[p. 22]

お話をじぶんで言ってみましょう

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・お話しの最初で、氷に乗ろうとしたタイガーをマックスがとめたのはなぜだろう。
- ・子どもたちは、なぜ雪の隠れ家をつくったんだろう。
- ・子どもたちは、窓をつくるのに何をにつかったかな？
- ・お話しの最後で、キャットはどのようにしてあたたまりましたか。

この話をまた読んでみるよう、お子さんにすすめましょう。読む自信をそだて、つかえずに読めるようになります。

<ほかにすること>

この本のことをくりかえし話題にしましょう。お子さんが雪や氷を見たときのこと、そしてそのときそれが何に似ていると思ったかを話しましょう。

隠れ家のことや、それを作るのに何がつかえるかを話しましょう。お子さんたちは、じぶんの隠れ家をつくってもいいでしょう。イグルーの絵を描いてもいいですね。